

厚生労働科学研究費補助金（免疫・アレルギー疾患政策研究事業）
分担研究報告書

特殊な難治性喘息病態（EGPA、重症真菌喘息、アスピリン喘息などの特殊病型）

研究代表者 谷口正実 国立病院機構相模原病院 臨床研究センター 客員研究部長
研究分担者 福富友馬 国立病院機構相模原病院 臨床研究センター
診断・治療薬開発研究室長
関谷潔史 国立病院機構相模原病院 アレルギー・呼吸器科 部長
上出庸介 国立病院機構相模原病院 呼吸器内科 医長
渡井健太郎 国立病院機構相模原病院 アレルギー科 医長

研究要旨：

目的

背景：難治病態の代表疾患である EGPA、ABPA 含む真菌喘息に対する具体的なマニュアルは不足しており、不十分な医療を受けている全国の患者は非常に多い（相模原病院自験成績から）。

目的：EGPA、重症真菌喘息（ABPA 含む）の 2 疾患の具体的な診療マニュアル/Q&A を作成し、全国のアレルギー医療の向上・均てん化を目指す（AERD に関しては、別に検討）。

方法

- 1) EGPA においては、AMED 針谷班において、日本初の EGPA ガイドラインが企画され、その作成メンバー（代表：埼玉医大天野教授）に関谷潔史、谷口正実が参画した。
- 2) ABPM では AMED 浅野班において国内外発の診療の手引きが企画され、研究分担者として谷口正実、福富友馬が参画した。
- 3) EGPA と ABPA に関する国内外の最新の文献や資料の収集を行う（各 300 以上）。
- 4) 臨床現場で問題となる症例における具体的な対応を、Q&A 方式で作成する。

結果

- 1) EGPA、AMED 針谷班において、EGPA ガイドラインが企画され、その作成を寄与した。
- 2) AMED 浅野班において ANPM の診療の手引きが企画され、その作成に寄与し、2019 年度に発行された（医学書院）。
- 3) EGPA と ABPA に関する国内外の最新の文献や資料の収集を行った（各 400-500）。
- 4) 実際に診断や治療が困難で紹介された EGPA、真菌関連重症喘息に関して、国立病院機構相模原病院自験例を基に、具体的な対応を、Q&A 方式で作成を開始した。

D. 考察

EGPA、ABPA とともに臨床現場で非常に対応が難渋する機会が多いことから、国内外の文献を多数集積し、マニュアル作成を開始した。これにより国内の難治アレルギー患者の医療均てん化に寄与できると期待される。

E. 結論

EGPA、ABPA とともに実際の臨床現場に有益で、ガイドラインや診療の手引き完成に寄与した。さらにそれでは不足する診断治療に関する対応法に関して、国内外の文献を多数集積し、マニュアル作成を開始した。

A. 研究目的

背景：成人喘息・アレルギー領域における難治病態の代表疾患は、EGPA、ABPA 含む真菌喘息、アスピリン喘息（AERD）の3種病態である。これらに対する具体的なマニュアルは不足しており、診断や治療において不十分な医療を受けている全国の患者は非常に多い（相模原病院自験成績から）。

目的：EGPA、重症真菌喘息（ABPA 含む）の2疾患の具体的な診療マニュアル/Q&Aを作成し、全国のアレルギー医療の向上・均てん化を目指す（AERD に関しては、別に検討）。

B. 研究方法

- 1) EGPA においては、AMED 針谷班において、日本初の EGPA ガイドラインが企画され、その作成メンバー（代表：埼玉医大天野教授）に関谷潔史、谷口正実が参画した。
- 2) ABPM では AMED 浅野班において国内外発の診療の手引きが企画され、研究分担者として谷口正実、福富友馬が参画した。
- 3) EGPA と ABPA に関する国内外の最新の文献や資料の収集を行う（各 300 以上）。
- 4) 実際に診断や治療が困難で紹介された国立病院機構相模原病院自験例を基に、臨床現場で問題となる症例における具体的な対応を、1, 2 の内容を補う形式で、Q&A 方式で作成する。

（倫理面への配慮）

該当する研究に関しては、国立病院機構相模原病院倫理委員会の承認のもとで研究を行った。

C. 研究結果

- 1) EGPA、AMED 針谷班において、日本初の EGPA ガイドラインが企画され、その作成をエビデンスから正確に行った。代表：埼玉医大天野教授で、関谷潔史、谷口正実が参画し 2020 年度に公表予定である。
- 2) AMED 浅野班において ANPM の診療の手引きが企画され、2019 年度に発行された（医学書院）。研究分担者として谷口正実、福富友馬が参画した。
- 3) EGPA と ABPA に関する国内外の最新の文献や資料の収集を行った（各 400-500）。
- 4) 実際に診断や治療が困難で紹介された EGPA, 真菌関連重症喘息に関して、国立病院機構相模原病院自験例を基に、臨床現場で問題となる症例における具体的な対応を、1, 2 の内容を補う形式で、Q&A 方式で作成する。

D. 考察

EGPA、ABPA ともに実際の臨床現場に有益で、ガイドラインや診療の手引き完成に寄与した。さらにそれでは不足する診断治療に関する対応法に関して、国内外の文献を多数集積し、マニュアル作成を開始した。これにより国内の難治アレルギー患者の医療均てん化に寄与できると期待される。

E. 結論

EGPA、ABPA ともに実際の臨床現場に有益で、ガイドラインや診療の手引き完成に寄与した。さらにそれでは不足する診断治療に関する対応法に関して、国内外の文献を多数集積し、マニュアル作成を開始した。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

特になし